




北アの大展望から奥日光まで！ 鳳凰 三山周回 (無雪期ピークハント/縦走/ 甲斐駒・北岳)

by
gekiyabu 

日程：

2012年08月04日 ～ 2012年08月05日

メンバー：

gekiyabu

天候：

快晴、お昼以降は時々ガス

地図：



WEB SERVICES BY 

標高グラフ：

コースタイム：

8/4

4:57 駐車余地 -- 5:01 ゲート -- 5:10 ドンドコ沢 -- 5:15 登山道 -- 7:34 五色滝
-- 8:18 鳳凰小屋 9:08 -- 9:52 地蔵ヶ岳(オベリスク直下) 11:03 -- 11:20 赤抜
沢ノ頭 -- 11:51 高嶺 13:46 -- 14:17 赤抜沢ノ頭 -- 14:42 鳳凰小屋

8/5

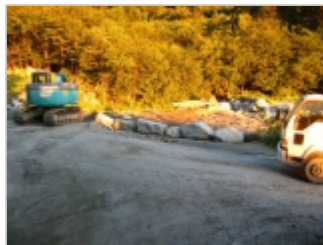
4:05 鳳凰小屋 -- 4:54 2690m稜線 -- 5:18 観音ヶ岳 6:18 -- 6:37 中道分岐 --
6:40 薬師ヶ岳 -- 8:05 廃林道 -- 8:25 中道登山口 -- 8:34 駐車余地

コース状況/その他周辺情報：

- ・ 1242m標高点の林道分岐を起点とし、ドンドコ沢登山道→鳳凰小屋→鳳凰三山→中道→1242m標高点の林道分岐と周回。
- ・ ゲートのかかった林道を進んでドンドコ沢を渡ってドンドコ沢沿いの登山道に乗る。
- ・ ドンドコ沢付近は工事現場を横断するため工事中の時間(8:00~17:00?)の通過は避けた方がよい
- ・ 沢には橋はかかっていないが水量少なく渡渉に問題なし
- ・ ドンドコ沢沿いの登山道は水が得られるので水を担ぐ必要なし
- ・ 鳳凰小屋で幕営。夏山シーズンの週末はテント場も大混雑するので、できるだけ密集して設営すること。また、密集するので夜間通過がやっかいになるため、可能ならテント場入口付近を確保した方がよい。入りきらない場合、テントの移動もある。
- ・ 地藏ヶ岳のオベリスクに安全に登るためには岩の素養が必要。なんとか登れても下りが厄介。ザイルで確保して懸垂下降が無難。
- ・ 天候が良ければ観音岳から北アルプスが展望できる。今回は奥日光まで見えた。
- ・ 薬師ヶ岳の山頂標識がある広場は地形図上の山頂ではない。北東側の岩が本当の山頂。ケルンあり。
- ・ 中道ルートもよく踏まれて心配な個所は無い。ただしドンドコ沢ルートと違って水は登山口以外に無いので最初から担ぐ必要あり。
- ・ 中道登山口までマイカー利用可能

写真：

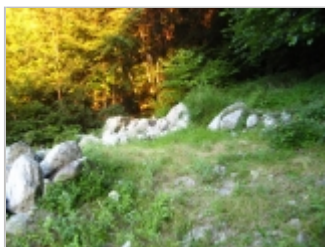
ドンドコ沢へ続く林道入口。ゲートあり



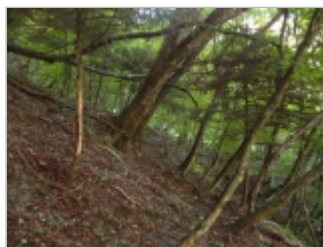
ドンドコ沢の工事現場



ドンドコ沢に橋は無いが水量少なく渡渉問題なし



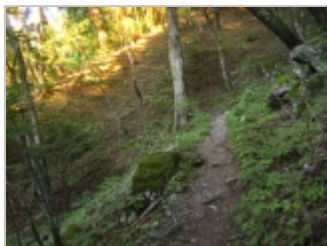
対岸に出たが道なし



適当に斜面を登る



登山道に出た



良好な道が続く



支流をいくつか横断するので水を担ぐ必要なし



南精進ヶ滝分岐



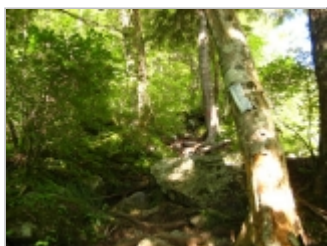
枯れ沢を横断



鳳凰の滝分岐



岩屋



急な登り



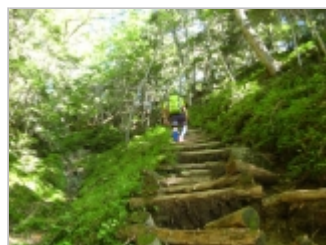
まだ水場あり



五色滝分岐



五色滝。しぶきに虹がかかる



先行する日帰り登山者に追いついた



シラビソ樹林



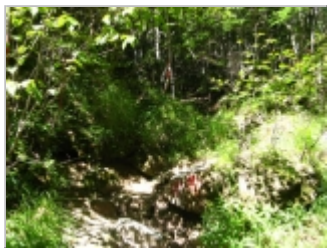
傾斜が緩み開けた谷に出ると鳳凰小屋は近い



鳳凰小屋



テント場。まだテント皆無



軽装で地藏ヶ岳に向かう



シラビソ樹林からダケカンバに変わる



白砂の開けた斜面に変わる



日に焼かれながら足場の悪い砂地を登るのは疲れる

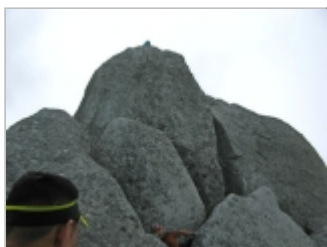


地藏ヶ岳の岩場に取り付く



オベリスク直下から見た南アルプス

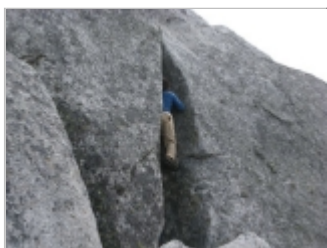
オベリスク直下から見た北アルプス



オベリスク直下。てっぺんに人がいる



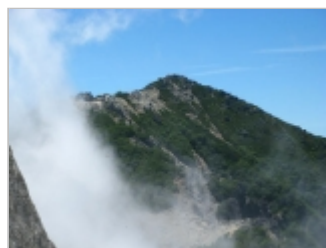
オベリスクのお助けロープ。一般人向けの場所ではない。今回も私はトライしなかった



オベリスク登頂達成者。見ている間に4人ほどいた



オベリスク直下から見た鞍部方面。結構な高度感がある



オベリスク直下から見た観音岳

る



地藏ヶ岳 - 赤抜沢ノ頭間鞍部



鞍部から地藏ヶ岳を見上げる



赤抜沢ノ頭



赤抜沢ノ頭から高嶺(たかね)に向かう



大樺沢。涼しそう！



奥のピークが高嶺



間もなく高嶺山頂



振り返る



高嶺山頂



高嶺から見た観音ヶ岳と北岳



鳳凰峠方面から登ってきた若者は気持ち良さそうに爆睡中



ガスが出てきたので鳳凰小屋に戻る



地藏ヶ岳もガスの中



砂地をジグザグに下る



鳳凰小屋の水場の谷。ここで水浴び



鳳凰小屋テント場は夕方には満杯



まだライトが必要な時刻に出発



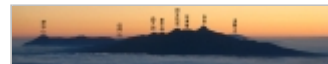
森林限界の稜線に出た



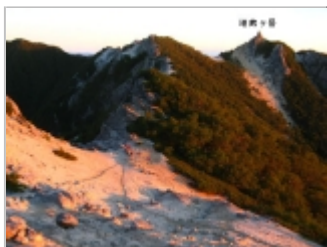
ちょうど日の出を迎えた



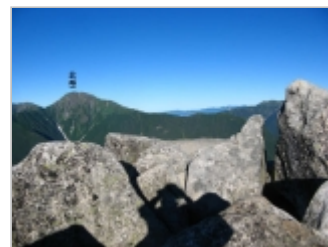
稜線から見た奥日光



稜線から見た八ヶ岳



観音ヶ岳に向かう



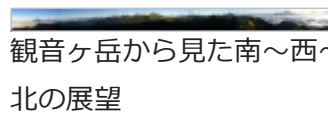
観音ヶ岳山頂



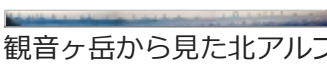
観音ヶ岳から見た地藏ヶ岳



観音ヶ岳から見た薬師ヶ岳



観音ヶ岳から見た南～西～北の展望



観音ヶ岳から見た北アルプス

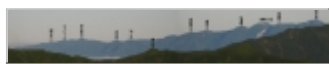


観音ヶ岳から見た乗鞍岳



観音ヶ岳から見た白根南嶺

と安倍山地



観音ヶ岳から見た中央アルプス



観音ヶ岳から見た木曽御嶽



観音ヶ岳から見た奥日光



観音ヶ岳から薬師ヶ岳へ向かう



薬師ヶ岳の手前



薬師ヶ岳山頂標識がある広場。ここは地形図の山頂ではない



青木鉱泉へ下る中道起点



地形図の薬師ヶ岳山頂へ向かう



地形図の薬師ヶ岳山頂



正確にはこの岩のてっぺんが山頂



薬師ヶ岳から見た西半分の展望



中道を下り始める



すぐに森林限界を切る



シラビソ樹林に突入



御座石



標高2000m以下はしばし
唐松植林



廃林道を横断



シラビソ植林？に突入



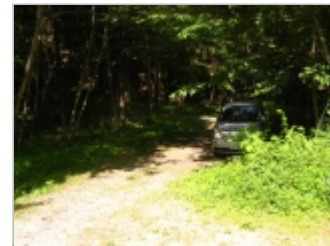
中道登山口付近の水場



中道登山口付近の廃屋



中道登山口



中道登山口。ここまでマイ
カー可。ただし道は悪い



中道登山口方面とドンドコ
沢方面の分岐点



この標識を右に入ればドン
ドコ沢



平日、土曜日は工事車両が
入るようだ

感想／記録 : (by gekiyabu)

今週も下界は酷暑、週末はアルプス級の山で涼むに限る。日曜は午後から用事があるため手近な山ということで今回は鳳凰三山。私の脚力なら青木鉦泉起点で充分日帰り可能だが、涼むのが目的なので鳳凰小屋でのんびりテント泊。地形図を見ると青木鉦泉より上部まで林道が伸びていて、中道登山口のすぐ下、1242m標高点でドンドコ沢に林道が分岐し、その先には破線が伸びてドンドコ沢を渡り対岸の登山道につながっている。これなら青木鉦泉を起点とするより標高差140mほどお得だし、ドンドコ沢登山道と中道をつなげて鳳凰三山を周遊可能なので利用価値が高い。中道登山口まではゲート

は無くマイカーで進入可能なことは2週間前に体験済みなので、あとはドンドコ沢が渡れるかどうかだ。地形図だと堰堤を渡るように読み取れるが橋がかかっているのだろうか？ 水量が分からないので渡渉可能かどうかは不明で現場に行ってみてのお楽しみ。

青木鉱泉分岐を通過、ダートの林道を車で上り続ける。路面の凸凹は酷いが速度を落とせば普通車でも走行可能だ。薬師ヶ岳の案内標識に従って2か所(だったと思う)の林道分岐を見送り、3か所目の分岐で右に入る。この先も工事中らしいが一般車ゲートもないし一般車進入禁止の標識もない。分岐点で道幅が広がっているので駐車も可能だが、まともな駐車スペースがある場所を探してドンドコ沢方面の林道を進む。2か所ほど駐車余地があったがそこに車を止めるとすれ違いの待避所として使えなくなりそうで、3番目に現れた一番大きな余地に車を止めた。しかしこれはちょっと失敗で、工事車両の迷惑にはならなかったと思うが工事車両が巻きあげる土埃で車が真っ白になってしまった。こちらよりも中道登山口付近に駐車するのが正解だった。

朝飯を食って出発。今回は前回登場機会が無かった防寒着を減らす。飯は前回より1日分少ないので荷物は軽い。ちなみに夏山装備で2泊までなら45リットルのザックでどうにかなっている。林道を少し歩くとゲート登場。左に上るのは地形図に書かれた林道、右側は破線として書かれた林道。一般者立入禁止の看板があるが工事開始は午前8時とのことなので邪魔にならないし許してもらおう。林道の続きを歩くとドンドコ沢が登場、工事は沢の治水かと思ったら林道の法面の工事中。堰堤があるが橋がかかっているわけではなく、沢を渡るには渡渉が必要だったが予想外に水量は少ないし、工事関係者が渡るためのものだろうか、沢の中に石の列ができていて簡単に渡ることができた。これで最大の問題点が解決。

対岸に到着して上流側に登山道があるかと思いきや、草むらでそれらしきものは無し。ま、適当に斜面を上がれば登山道があるのは確実なので心配なし。斜面の植生は下草皆無で適当に歩けるため、右にトラバース気味に上っていくとすぐに登山道が出現した。そこは斜面に沿って青木鉱泉に至る道と沢沿いに下る道とが分岐する個所だった。地形図を良く見ると堰堤から下流方向に破線が書かれており、沢を渡ってから上流ではなく下流側を見れば道があったのかもしれない。

あとは登山道を辿るだけ。登山道は見える範囲は無人で周囲は静か。まだ青木鉱泉発の登山者が上がってくるには時刻が早いのか。そのうちに背後から足音が。日帰りと思われる男性に追い越された。ちなみに登山道で私が追い越されることは滅多に無い。最初の沢で私を追い越した男性が休憩中で、私の後ろには別の単独男性が接近していたがこの男性も休憩。この後も適度に小さな沢を横断する機会があってザックに入れた水の出番は無し。今回のコースを周回する場合、上りはドンドコ沢を利用すれば水を担がなくて済むので理にかなっているだろう。次の沢で顔を洗って濡れタオルで顔や腕にかけた汗を拭い、タオルを洗って数分でお出発。先ほどの単独男性2人はおしゃべりしながら

ら先行していったが、ちよくちよくと短い休憩を挿むのでほとんど休憩をしない私が再び先行となった。そのうちに軽装の別の単独男性にも追いつく。

ドンドコ沢にはいくつか滝があるようだが登山道から直接見える滝は少なく分岐から奥に入る必要があるようで、面倒なので今回は五色ノ滝を除いてパス。五色ノ滝はなかなか見事で飛沫に虹がかかって見ごたえがあった。

急な斜面を登り標高2300mを越えると傾斜が緩んで開けた谷の左岸沿いの登山道に変わり、ようやく地藏ヶ岳が姿を見せる。そして鳳凰小屋が登場。何年ぶりだったかなあ。小屋は宿泊客が全て出払って暇な時間帯らしく、スタッフ一同が外のベンチで食事を始めるところだった。空は真っ青、日差したっぷりで外での飯は小屋の中よりも気持ちいいだろう。やがて最後に追い越した単独男性が到着、しばらくして最初の沢で休んでいた男性2人が到着。たぶん私も含めたこの4人が本日の青木鉱泉発のお客だろう。

後から到着した男性のうち一人も私と同じくここで幕営。前回、料金がいくらだったか覚えていないが今回は¥800。この値段は初めてだ。というのもテント場料金は過去15年の記憶で¥500/1人/1日か¥600のどちらかだから。それだけ人気があるということかも。テント場は1張だけあったが撤収作業中。今はどこでも張り放題だが今の時期の週末の夕方は激混み必至なので張る場所は要注意。張りきれない場合、一番広いテント場ではなくその奥のいくつかの小さな区画に分かれた場所から場所調整が始まるが、調整が不要のように最初からできるだけ端に寄せて、しかも自分のテントの大きさに適合して無駄スペースができない場所に設置しておけば場所調整が不要(というか不可能)だ。私の場合は一番広いスペースの一番奥、盲腸のように僅かに飛び出した場所に張った。ここは1張分しかスペースが無いので後調整は不可能でテント移動の可能性なし。おまけに「裏口通路」があってテント村を突っ切ることなくトイレや登山道に達することができる。これは重要で、テントが混雑して僅かな通路を残してテントが密集状態になると、夜間にヘッドライトで張綱を全て避けながら歩くのは至難の業となるので、できるだけ広場入口などテント村をかき分けて歩かなくて済む場所を確保するのが重要だ。

時間がたっぷりあるので軽装で山頂を往復。明日は観音ヶ岳と薬師ヶ岳を縦走することもあり、本日の行き先は地藏ヶ岳に高嶺。森林限界を超えて日影が無いので暑くてのんびり昼寝とはいかないかも。それとも日中はガスが出て涼しくなるかな。

小屋の先で地藏ヶ岳方面と観音ヶ岳方面に道が分岐、地藏ヶ岳方面に進む。深いシラビソ樹林を急登、ダケカンバに変わると森林限界が近い。ダケカンバが疎になって明るくなると白い砂地の急斜面。砂浜を歩くようで登りはきつい。下りは膝への衝撃が砂に吸収されて歩きやすいのだが。ここで先行者を追い越すが後ろから同様のペースで登ってくる男女あり。オベリスク直下で話を聞いたらトレイルランナーだった。どうりで強

いわけだ。

今回もオベリスクに登る予定はないが、とりあえず直下までは登っていくことにする。基本は花崗岩の積み重なりだがオベリスクまではのっぺらぼうの岩はなく適度にホールドスタンスがあって安全に登れる。オベリスク直下へは「裏ルート」があり、基部を北側に回り込むとレリーフが埋め込まれた個所に岩の隙間があり、お助けロープが垂れた個所へ出られる。これより上部は大きなクラックが入った1枚岩で明瞭なホールドスタンスはなく、お助けロープとクラックを利用して登ることになる。高さは5,6mだが落ちれば軽い怪我では済まない。岩登りの場合、登りよりも下りの方が難しいのでよほどの覚悟をしない限りは登るべきではない。長年単独行をやっているが、やっぱりここはリスクが高すぎると考えた。あまり高度なクライミング技術は不要だろうが岩の素人が突っ込むのは。いつか登れるようになる時がくるだろうか。それでも私が休憩しているうちに4人が登った。最後の親子連れの男性(当然だが登ったのは父親だけ)は明らかにクライミングの経験があると思われ、見ていても安心感があった。

地蔵ヶ岳からは北アルプスを眺めることができた。先週は晴れていても空気の透明度が悪く北アは影も形も見えなかったが、今回は立山剣までばっちり。登った甲斐があったというものだ。

時間はたっぷりあるのでしばし休憩してから高嶺に向かう。久しぶりの赤抜沢ノ頭を通過、既に甲府盆地側からガスが上がり始めて地蔵ヶ岳が見えなくなっていた。2710m肩を通過して鞍部に下り、じりじりと日に焼かれながら高嶺山頂へと登り返す。傾斜が無くなり山頂かと思いきや、そこは2760m肩で、その先が三角点が立つ本当の高嶺山頂だった。北岳と大樺沢が目の前で足元には広河原。早川尾根や甲斐駒はガスの向こうだった。ここでしばしお昼寝タイムとしたが、頭上に近い太陽の方向はガスがかかっていなくて暑かった！ 長い休憩中に白鳳峠側や地蔵ヶ岳側から登山者がやってきては通過していった。

徐々にガスがかかり始め、雨の可能性もあったので撤収。しかしこの日は最後まで雨はなかった。小屋に戻って沢で水浴び。快適に寝るためにはこれが必要。テント場は既にいっぱいだがまだ登山者がやってきて、小屋の親父がいよいよテント場整理開始。どうにか全員が敷地内に張れた。後の時間帯にやってきたグループは場所を分散してテントを張らざるを得なかったがしょうがない。いい場所を確保するためには早い時刻に小屋に到着するしかない。この夜は風もなく快適だった。最低気温は6,7℃で先週より冷えてはいたが先週使ったダウンジャケットの出番はなかった。

翌朝、3時起床で4時出発を目指して飯を食って撤収作業。いつもなら広い場所を使ってテントを畳めるのだが場所が狭いため少し面倒だった。トイレを済ませて出発。今度は観音岳を目指す。山頂で日の出を迎える予定はないが、できれば森林限界を超えた場所で日の出を見たいところだ。出発時はまだ真っ暗に近くライトが必要、しかもしばし

シラビソ樹林を登るので真っ暗だ。森林限界を超えればもっと明るいただろうけど。

日の出と競争するように樹林を登っていき、奥秩父の山の向こうから登る日の出と同時刻に稜線到着。ここでは数人の登山者が日の出を待ちかまえていた。みんな寒さ対策で着込んでいるが、登ってきたばかりの私はTシャツ半ズボンの場違いな姿だ。ここからだとまだ北アは見えないが、代わりに雲海の上に日光白根と男体山が見えていた。これに気づく登山者は他にはいないだろう。

森林限界の稜線を登っていくと徐々に北アが姿を現したが、昨日と変わらず立山、劔岳まではっきりと見えた。今日は妙高、火打、焼山、金山までぼっち。山頂で日の出を迎えて下ってくる登山者とすれ違い、私が山頂に到着した時には登山者は1人だけ。意外な状況だった。しかし展望は日の出直後よりもこのくらいの時刻の方が良好だ。西側の伊那の山々は白根三山や仙丈ヶ岳、甲斐駒が邪魔して見ることはできず、仙丈ヶ岳と北岳の間に中央アルプスの空木岳～アザミ岳の間が見えていた。仙丈ヶ岳右側には木曾御嶽。仙丈ヶ岳と甲斐駒の間には乗鞍岳。笠ヶ岳や西穂稜線は甲斐駒の裏側だった。南に目を転ずると大無間山が一番遠いか。いや、安倍山地の篠井山がもっと遠いか。これだけ見えれば大満足だ。

景色を堪能して薬師ヶ岳に向かう。この稜線は北ア燕岳の稜線のように花崗岩に白い砂の独特の風景が印象的。富士山をほぼ正面に見つつ歩けるのもいい。薬師ヶ岳山頂は山頂標識が立つ広場ではなくその北東側の岩なので、そこを踏んでから下山することに。中道に入っていったん僅かに下り、砂礫を登ってピークに到着。一番高い場所は岩のてっぺんであるが、これは地蔵ヶ岳のオベリスクのような「付属品」と考え、ケルンのある地面を山頂としていいだろう。登るのが困難な場所ではないが、縦走路から僅かに外れていてここに立つ人はほとんどいない静かな場所だ。

これで気持ちのいい稜線歩きはおしまいで樹林が生い茂った中道を下り始める。すぐに森林限界を切って樹林帯に突入、あとは延々と森の中を下って行くだけ。先行で下っていく登山者の姿もあるが、中道を登る登山者の姿も目立つ。たぶんドンドコ沢を登る登山者よりは少ないと思うが、でも、やっぱりドンドコ沢を登って中道を下る方が賢明だと思う。水の問題もあるが、それ以上に山頂での展望の問題が大きい。ドンドコ沢を登る場合、鳳凰小屋で宿泊して翌朝の早い時刻に稜線を歩くためガスが上がって展望がない確率は低い。しかし逆回りの場合、初日のお昼頃が稜線歩きの間帯となり熱雲が上がって山頂で展望が得られない確率が高い。2日目の下山時刻が早くなって自宅の帰りも早くなるメリットはあるが、やっぱり山頂は展望がなくでは。

登山口が近くなると登ってくる人の姿はなくなる。気温も上昇して汗だく状態で、濡れタオルで頻りに汗をぬぐいながら+扇でパタパタしながら歩いた。登山口近くの小さな沢で汗臭くなったタオルを洗い、顔も洗ってさっぱり。中道登山口の車は1台のみ。

林道を歩いて青木鉱泉方面ではなくドンドコ沢方面の林道を上がり車へ。土曜日は工事をしていたようで路側の駐車スペースに置いた車は土埃で真っ白だった。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>